

紙版 ハコブネ×ブックス vol.51

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



ぼくが消えないうちに THE IMAGINARY.

作者 A.F.ハロルド
翻訳者 ごだまともこ
出版社 ポプラ社
発行 2016年10月
ISBN 978-4591150283
978-4591174012 (ポプラ文庫)

review



想像力が豊かで、いつも自分だけの物語を作り出して遊んでいた女の子アマンダは、イマジナリーフレンドのラジャーを生み出しました。この夏、二人は一緒に遊び、様々な冒険に繰り出していました。そんなある日、アマンダの家にパンディングと名乗る怪しい中年男が娘らしき少女を連れて訪ねてきます。彼らは見えない友だちを吸収することで命を繋いできた善良ならざる存在でした。アマンダは、ラジャーを連れて逃げようとして事故に遭い、瀕死の重傷を負い病院に搬送されます。存命ながら意識が不確かなアマンダは、ラジャーを忘れてしまうかも知れませんが、パンディングの脅威から逃れながら、なんとかアマンダに自分を思い出してもらおうとするラジャー。いつか忘れられて消えていく存在であるイマジナリーフレンドとの友愛が、時を越えて輝きます。



マイク

MIKE.

作者 アンドリュー・ノリス
翻訳者 最所篤子
出版社 小学館
発行 2019年10月
ISBN 978-4092906358

review



若手テニスプレーヤーとして活躍中のフロイドは、黒いロングコートを着た男性を試合会場で見かけるようになり、マイクは、フロイドにテニスをやめさせようとしているのですが、他の人にはその姿が見えないのです。異変を感じとった両親のすすめで精神科医の診断を受けたところ、マイクの存在は、フロイドの抑圧された願望の投影だと結論づけられます。両親の期待に応えるためテニスを続け、好成績をあげてきたものの、本心ではテニスを辞めたかった自分の気持ちにフロイドは気づきます。高校を卒業し、進路を考えたフロイドは、あっさりとしてテニスを辞めて、小さな水族館で働きはじめます。人生の岐路で現れるイマジナリーフレンドに導かれながら、自分はなにをなすべきかという問いを少年が真摯に突き詰めていく爽やかな物語です。

特集

イマジナリーフレンドはいますか？

イマジナリーフレンドは現実には存在しない空想上の友だちです。子どもの頃に自分だけに見える特別な存在はいましたか。今もいますか。彼らは多くの物語に、妖精のような存在として、あるいは、二重人格や心の抑圧によって作り出された妄想として描かれてきました。たとえ存在してなくても、子どもたちには見えていることは尊重すべき事実です。誰かが大切にしているものなら、ともに慈しむべきでしょう。『ぼくとイマジナリー』の昔から、イマジナリーフレンドが見える子どもたちの気持ちに寄り添う周囲の人たちの姿勢も問われてきました。読者もまた同じです。



ぼくとイマジナリー
E.L.カニグズバーグ
岩波書店 1978年7月

イマジナリーフレンドと

CONFESSIONS OF AN IMAGINARY FRIEND.

作者 ミシェル・クエヴァス
翻訳者 杉田七重
出版社 小学館
発行 2019年4月
ISBN 978-4092906204



ジャック・パピエは、自分が双子の妹だと思っていたフラアのイマジナリーフレンドであることを知って驚きます。家族以外の人たちから無視されるのは、自分が嫌われ者だからだと思っていたのです。まさか自分が存在しないとは。フラアが連れていかれた病院の精神科で、ジャックは、他の子どもたちのイマジナリーフレンドたちと知り合います。イマジナリーフレンドのコミュニティに参加し、悩みを打ち明け親交を深めながらも、ジャックは何者でもない自分の存在に焦燥を覚えます。やがてフラアの元を離れて自分をさがす旅に出たジャックは、自分は結局、誰かのイマジナリーフレンドとしてしか存在できないことを知ります。何者でもない自分はどうか生きていけばいいのか。存在の空虚さに想い悩むティーンの写し絵のようなイマジナリーフレンド像が描かれます。

クレンショーがあらわれて

CRENSHAW.

作者 キャサリン・アップルゲイト
翻訳者 ごだまともこ
出版社 フレーベル館
発行 2019年10月
ISBN 978-4577048306



ジャクソンがこのところ心配しているのは家の経済状態です。父親は病気で働けず、パート勤務をかねてもちしても母親一人では十分な収入を得ることができないため、家計は逼迫した状態になりつつあります。両親は楽天的で、そんな心配を口にするとはなく、気を揉んでいるのはジャクソンばかり。以前にも家がこうした経済状態に陥り、車の中で生活をしたこともあるジャクソンは、またあのような生活に戻るのかと一人で心配を募らせていました。そんな時、あらわれたのがクレンショーです。ジャックを着た大型の猫の姿をしたこのイマジナリーフレンドは、ジャクソンの気持ちが不安定になると現れるのです。心のバランスを失ったジャクソンは、どうやって精神の均衡をとり戻したらいいのか。頼れる相棒というわけでもない変なイマジナリーフレンドとの共生が、ジャクソンの不安な日々を彩ります。

特集

イマジナリーフレンドはいますか？



ボビーとデインガン
(ベン・ライズ)
アーティストハウス 2000年

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.51

2025年12月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



お問合せはこちらから。